



Newsletter

ニュースレター 2015年4月 Vol.21

株式会社Y.E.S.ESL International JAPAN
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-21-10 グランスイート虎ノ門703
TEL:03-5510-4844 / FAX:03-5510-4845
URL : www.yesinternational.com
E-mail : info@yesinternationaljapan.com

サムライサンディエゴサマーベースボールリーグ（野球）

サムライサンディエゴ ホワイトニーヘッドコーチがコーチ研修のため日本訪問

サムライサンディエゴサマーリーグのヘッドコーチを務めるシェイン・ホワイトニー氏が3月27日よりコーチ研修のため日本を訪れました。

ホワイトニーコーチは、昨年5名の選手を日本に送ったサムライサンディエゴ球団から、さらに日本へ有望な選手たちを送るためにも、日本で選手たちがどのような指導を受けているのか、どのような選手が日本のチームに求められているのかなどを学ぶコーチ研修を目的として、日本の大学野球、日本プロ野球、日本独立リーグ野球、クラブチーム野球のチームを訪れました。

ホワイトニーコーチは昨年、東日本大震災の被災学生70名をサンディエゴ市に招待した日本国外務省主催「かけはしプロジェクト」で学生団を引率した元中日ドラゴンズの谷沢健一氏のご厚意のもと、谷沢氏が臨時コーチを務める東京大学硬式野球部、また谷沢氏が理事長を務めるクラブチームYBC柏を訪れました。

早稲田大学野球部から中日ドラゴンズに入団し通算2,062安打を残した谷沢氏の打撃理論に基づくバッティング指導論から、アスリートとしての姿勢を若い世代の選手にどのように指導するかなど、谷沢氏から選手指導論を教えていただきました。



サムライサンディエゴの地元サンディエゴ市にあるカーニー高校野球部のコーチも務めているホワイトニーコーチは「日本のチームでは選手たちそれぞれが基礎技術を高める工夫をしながら練習に取り組んでいて、それを指導者が細かくサポートしているように感じました。サムライサンディエゴに所属する日本人選手たちのもっている技術力の高さにいつも感心していたのですが、基礎技術を高めることができる日本のこのような環境で小さな時からプレーしていることが日本の選手たちの基礎技術のレベルの高さに繋がっているのだと感じました」とコメントしています。



またホワイトニーコーチはサムライサンディエゴ出身選手のジャック・ダルー（捕手、タイ王国代表選手）、テレンス・ブキャナン（内野手、カリフォルニア州立大学サンマルコス校）両選手が所属する日本独立リーグ球団石川ミリオンスタースを訪問。同球団で今年から監督を務めるフリオ・フランコ氏とも会談しました。MLBで23年間、また日本プロ野球でも2年間プレーしたフランコ氏に日米両国で活躍する選手育成について、選手としての視点、また指導者としての視点からのアドバイスをいただきました。

またホワイトニーコーチは研修の一環として日本プロ野球の2015年公式戦開幕試合も観戦し、日本の野球ファンの野球に対する熱も体験しました。



シェインホワイトニー監督より

「今回、日本の選手たちの真摯に練習や試合に取り組む姿勢を見ることができ、また谷沢氏やフリオ・フランコ氏に選手指導のあり方を教えていただくことができ非常に勉強になりました。今後はこの経験を生かして、一人でも多くの選手が日本やアメリカで更に上のレベルのリーグにチャレンジできるように選手指導にあたりたいと考えています。このような機会を与えていただいたサムライサンディエゴ球団に感謝しています。」

サムライサンディエゴ 入団面接始まる

今季のサムライサンディエゴの入団希望選手の面談が始まりました。サンディエゴ市のあるカリフォルニア州の学生選手たちは、6月初旬に実技トライアウトと個人面談を実施して入団審査を行います。カリフォルニア州外やアメリカ国外から参加を希望する選手については実技トライアウトを免除し、大学野球部からの推薦、ビデオ審査、電話面談内容をもとに審査しています。

選手の入団審査は学生選手の「サムライサンディエゴでプレーしたい」という意思を決定基準としていて参加を希望する選手はどの選手でも入団させてプレーさせてあげたいと考えています。ただし、球団でプレーする以上、選手はサムライサンディエゴの選手として、また自分が所属している大学野球部の名前を背負ってプレーすることになるので大学野球部からの推薦と面談内容を通じて審査することにしています。

なかには大学リーグで目立つ成績を残していない選手や技術レベルが他の選手より劣る選手が入団してくる事もありますが、それぞれの選手が1ヶ月間のプレーを通じて少しずつ学生選手として成長すればいいと考えています。

選手との面談では、そのような球団としての姿勢を説明した後、自由に選手に自分を売り込むように伝えています。なかなか自分自身をうまくアピールできない日本人選手がいたり自分の輝かしい選手成績やコーチからいかに評価されているかを延々と説明するアメリカ人選手がいたり、面談ではいろいろな選手のタイプを見ることができます。

サムライサンディエゴは今大学野球部の監督やコーチから「うちの選手を預かって欲しい」と依頼されるようになりましたが、アメリカ人学生選手と日本人選手の混成チーム編成初年度となった2012年はアメリカの大学野球部や学生選手たちにチームが知られていなかったため、大学野球選手に入団を誘っても相手にもしてもらえなかったり、地元の草野球チームの選手に「毎試合、1番ショートで使ってくれるなら入団してもいい」と言われてしまったり選手を集めることに苦労した時期もありました。

今年からサムライサンディエゴは、大学野球リーグにチャレンジする選手たちが中心となる「Futures（フューチャーズ）」とすでに4年制大学野球リーグで活躍していて、今年また来年に大学野球を終えて日本の社会人野球やプロ野球、独立リーグを目指す選手たちが中心となる「Elite（エリート）」の2チームとなり、6月20日から各20試合を戦います。

開幕から好調のパロマーカレッジ、2年制大学ランク全米12位

サンディエゴの2年制大学野球リーグを牽引するパロマーカレッジが全米2年制大学野球部全米12位(全511チーム中)にランクしています。例年、シーズン開幕当初はあまり調子が上がらないパロマーカレッジですが、今年は開幕から順調に勝ち星を重ね22勝5敗としています。（4月6日時点）

パロマーカレッジ野球部はサンディエゴ市のある南カリフォルニアの名門チームで毎年、秋学期には100名を越す入部希望者が35名の登録選手枠を目指して部内トライアウトに参加します。昨年、同大学の2年生選手18名のうち、全米大学体育協会NCAA1部リーグ大学野球部へ進学した選手が7名、NCAA2部リーグに進学した選手5名、NAIAリーグ大学野球部進学が4名と卒業後にも4年制大学に編入進学してプレーを続ける選手たちを数多く輩出しています。

2013,2014年とサムライサンディエゴで活躍しているハグランドもパロマー大学からNCAA2部リーグのカリフォルニア州立大学サンバーナーディーノ校に進学し先発ローテーションの一角を担っています。

パロマー大学の所属する地区リーグでは4月下旬まであと3週間リーグ戦が続きます。



2015年3月末に発表された全米2年制大学野球部ランク

1. サンホアキンデルタ大, カリフォルニア州
2. セイントジョンズリバー大, フロリダ州
3. チポラ大, フロリダ州
4. カウレーカントリー大, カンザス州
5. アイオワウェスタン大, アイオワ州
6. ウェザフォード大, テキサス州
7. ウォルターズステイト大, テネシー州
8. ガルフコーストステイト大, フロリダ州
9. サンジャシント大, テキサス州
10. フローレンスダーリントン大, サウスカロライナ州
11. パームビーチステイト大, フロリダ州
12. パロマー大, カリフォルニア州
13. ヒンズ大, ミシシッピ州
14. フレズノ大, カリフォルニア州
15. ジョンソンカウンティ大, カンザス州
16. コチセ大, アリゾナ州
17. メサ大, アリゾナ州
18. サザンネバダ大, ネバダ州
19. グレイソン大, テキサス州
20. サンタフェ大, フロリダ州
21. セミノールステイト大, オクラホマ州
22. ハウワード大, テキサス州
23. オクスナード大, カリフォルニア州
24. ポークステート大, フロリダ州
25. デルガド大, ルイジアナ州



アメリカサッカーニュース

MLSクラブと大学の提携で実現した全米初のサッカークラブ経営学

この度、MLSに所属するコロラド・ラピッズが、地元州立四年制大学のコロラド大学コロラドスプリング校（以下UCCS）とパートナーシップを締結し、全米初となるサッカークラブの経営に特化した「サッカークラブ経営学」を導入するとの発表をしました。これにより、提携先大学となったUCCSでは、サッカークラブの経営に関するより専門的な知識の修得や、コロラド・ラピッズの経営陣から学ぶ、現場での実地研修などが可能となり、今後サッカー事業での活躍を目指す学生達を後押しするプログラムが現実化しました。



こちらのクラスは今秋から開始され、毎年23名の学生が、コロラド・ラピッズの経営内部でのマーケティングやデジタル・メディア、チケット販売戦略などといった、学生では滅多に経験することの出来ないプロフェッショナルなクラブ経営を間近で学習します。

「この度のUCCSとのパートナーシップの締結により、今までにない画期的なスポーツビジネスプログラムを設立できたことに大変嬉しく思います。我々の持つスポーツクラブ経営における実践的なノウハウと、UCCSの学術機関としての確かな実力が混合する事で、明日のスポーツビジネスリーダーの誕生に拍車がかかる事を感じています。」（コロラド・ラピッズ代表取締役：Tim Hinchey氏）

UCCSは、コロラド州のコロラドスプリングス市に地域に位置する、州立の四年制大学です。ここでは、36の学士課程と19の修士課程、そして5つの博士課程を提供しており、現在約13,000名の学生が在籍します。コロラド州では、現在最も飛躍的な成長を遂げている大学の一つとしても知られている事もあり、今回のMLSクラブとの提携に至ったとの事です。

「スポーツ業界での成功を志す学生に必要なスキルや経験を提供すべく、コロラド・ラピッズとは時間をかけて入念に関係を築いてきました。世界一のスポーツビジネス大国であるアメリカにおいて、学生のうちからプロの経営陣のもとで訓練を受ける事が可能となったこの実践的な教育プログラムが、スポーツ界でプロフェッショナルな道に歩いていくための大きな一歩となる事と思います。」（UCCSスポーツマネジメントプログラム取締役：Eric Olson）

アメリカのみならず、現在世界ではサッカーが立派なビジネスとして認識されています。スポーツビジネスにおいて、日本人が先頭に立ってプロのスポーツクラブを率いる日もそう遠くはないかもしれません。

カリフォルニア遠征でみえた流通経済大学サッカー部の強さの秘訣とは

2014年度に2度の大学サッカーチャンピオンに輝いた流通経済大学の男子サッカー部が、3月3日から3月10日にかけて、カリフォルニア遠征を実施しました。今回で3度目となる今年のカリフォルニア遠征では、7泊9日の滞在期間中に、現地の大学9校との練習試合を実施し、4月から開幕するリーグ戦に向けた強化を図りました。

今回の遠征に参加したのは、現在、全日本大学選抜のスペイン遠征に参加中の主力メンバー数名を除く、トップチームのメンバーです。4月からは、流通経済大学が所属する関東大学サッカー1部リーグが開幕しますが、当遠征での練習試合では選手を固定する事なく、様々な選手を組み合わせで臨んでいるとの事です。とは言っても、やはり2014年度に2度の大学チャンピオンに輝いたチームなだけあり、その強さはカリフォルニアでも証明されています。3月7日には、2014年度の全米準優勝校であるUCLA相手に逆転勝利を収め、その翌日には、2014年度全米ランキング13位のUC Irvine に2-1で勝利を収めました。この強さの鍵を握るのは一体何なのでしょう？

「うち（流通経済大学サッカー部）では、サッカーだけ出来ても通用しません。選手は授業をサボったり寝坊して遅刻したりした際には、サッカーの実力関係なく、レギュラーから外します。プロのサッカー選手になれる可能性には非常に限りがあり、うちも現在230名の部員がいますが、その中でもプロになれるのは数名ですから。私は18年間、流通経済大学のサッカー部を指揮していますが、プロ輩出数が最も多かった年代でも、13名でした。もちろん、プロになったからといって、一生プロサッカー選手でいられる訳ではないので、選手には、サッカー以外の事もしっかり学ぶよう指導しています。」（中野雄二監督）

これまで、約50名以上のプロ選手を輩出してきた中野監督ですが、決して、選手にはサッカーだけに集中させる環境は与えず、学生時代の様々な経験を通して育まれる「人間形成」にも力を入れているとの事です。

「選手にはボランティア活動にも積極的に参加させています。年に4回は献血もさせています。昨年、茨城で雪が積もった事があったのですが、その際はサッカー部の練習を一週間休止して、地域の雪かきを行いました。そうすると、地域の皆様から温かいお言葉を頂いたり、地元の小学生たちからは感謝の意がこめられた作文も頂きました。このような経験を通して、選手たちには立派な人間に成長して欲しいと思っています。」（中野監督）

公式戦が間近に迫っている状況でも、選手にはボランティア活動に参加させるそうで、時には選手のほうが試合への不安感を覚えることもあるそうです。しかしそれでも、結果をきっちり残すところは、さすが名将中野監督であり、そこについていく流通経済大学サッカー部の選手たちであります。

「サッカー部に所属する選手は、市内出身であろうと関係なく、全寮制にしています。3年前までは私も妻と共に寮生活を行い、選手の管理に務めていました。今もサッカー部230名の食事を担当するのは私の妻です。そういう面でも、選手たちはこちらの事を色々理解してくれていると思います。」（中野監督）

今回のカリフォルニア遠征に参加しているトップチームのメンバーをみても、茶髪・ロン毛・ピアス・ひげなどが目立つ選手はほとんどいません。これは、特に監督が指示しているわけではなく、選手たち自身で意識し、行動しているとの事で、その点からも日本一の座に輝く大学サッカー部の違いを見受けました。中野監督曰く、今年のチームがここ最近で最も良いとの事で、今年の目標は、去年達成できなかった大学3冠（総理大臣杯、リーグ戦、インカレ）達成です。カリフォルニア遠征でよりたくましくなった流通経済大学サッカー部に、今年も注目です。



アメリカで2番目に古いテニストーナメント 大学のトッププレーヤーが全国からサンディエゴに集結

今回のテニスニュースは、アメリカ全土の強豪大学テニス選手、大学及び一般テニスコーチ、トップジュニア、元ツアープロ等がサンディエゴに一堂に会し争った、第126回パシフィックコースト男子ダブルス・チャンピオンシップについてレポートします。このトーナメントはアメリカで2番目に古いテニストーナメントで、「サンディエゴの真珠」と呼ばれる風光明媚の海辺の街ラ・ホーヤで年に一度行われるトーナメントです。トーナメント会場は、カリフォルニア唯一のプライベートビーチを持ち、USTA（アメリカテニス連盟）から毎年「ベスト20テニスリゾート」に選ばれているラ・ホーヤ・ビーチ&テニスクラブです。今年のトーナメントに参加した選手は250人、125組のダブルスチームがチャンピオンシップの獲得に挑戦しましたが、このトーナメントでは独特のシードシステムを採用しています。まずトップ16の大学ダブルス・チームとトップ16の個人参加のダブルス・チーム選出後、No.1シードは1組、No.2シードは2組、そしてNo.9シードは16組など複数組が選ばれ抽選が行われました。



注目のシード選手達

注目の大学No.1シードは、南カリフォルニア大学のロベルト・キロズ選手とシーボルト・フォゲット選手です。キロズ選手は南カリフォルニア大学がNCAAチャンピオンシップ（全米大学選手権）で2011年・2012年・2014年に優勝したときのメンバーで、昨年（2014年）11月にはITA（全国大学テニス連盟）の全国インドア選手権大会で、ダブルスタイトルを獲得しています。

また個人参加でのNo.2シードには、高校3年生ペアが選ばれています。その一人は元女子シングルス世界ランク1位のトレシー・オースチンの子息ブランドン・ホルト選手で、もう一人は南カリフォルニア大学を2011年・2012年・2014年とNCAAチャンピオンシップ（全米大学選手権）優勝に導いた名コーチ・ピーター・スミスの子息ライリー・スミス選手です。

栄冠を勝ち取ったのはノーシードのペア

太陽が燦々と降り注ぐ日曜の午後、4日間にわたる大会期間中の激しい戦いを勝ち残り、決勝戦でNo.1シードを倒し優勝したのは、ノーシードのオクラホマ州立大学のペアでした。試合のスコアは6-3、6-4でその内容は、各セットとも南カリフォルニア大学のフォゲット選手のサーブをオクラホマ州立大学ペアがブレイクしたことで決まりました。特に第2セット4-4でのフォゲット選手のサーブ時に、ブレイクポイントを彼のダブル・フォルトで失って、オクラホマ州立大学ペアに5-4リードを許してしまいました。その後オクラホマ州立大学ペアは難なくサーブをキープし、大金星を挙げました。

優勝ペアの一人、ルーカス・ガーチ選手は、「私たちが勝つことを誰も予測していなかったもので、プレッシャーを感じることなくプレーできました。」と語り、パートナーのニコライ・フェリーニョ・オルセン選手は「私たちはお互いのゲームを良く知っているので、多くの戦術を使ったプレーができました。」とコメントをしました。

今回の決勝戦では、4人がすべて外国籍の選手でした。ガーチ選手はドイツ出身で、フェリーニョ・オルセン選手はデンマークの出身です。No.1シードのフォゲット選手はフランスからで、父親は元フランスのデビス・カップ選手だったガイ・フォゲット氏ですし、そのパートナーのキロズ選手はエクアドル出身で、1990年にフレンチオープンで優勝したアンドレス・ゴメスの甥です。

モチベーションの高い高校生選手たち

この大会を取材して最も印象に残ったのは、今年の一般参加の高校生トップジュニアは10名を超え、毎年その参加人数が増えているということです。アメリカの大学進学には、学校の成績・全国共通テストの点数などと共に、勉強以外の活動が重要な要素となっています。そのような状況の中で、各強豪大学が一堂に集うこの大会に参加して、自分の目指す大学のコーチの前でプレーして自分を積極的にアピールしようとする目的意識の高い高校生選手達が沢山いるということです。彼らは早ければ高校卒業の1年以上前に意中の大学から内定をもらい、大学受験のプレッシャーから離れて勉学とテニスに集中して高校を卒業します。

このトーナメントに参加した大学テニスチーム（順不同）

スタンフォード大学、カリフォルニア大学バークレー校、カリフォルニア大学ロサンゼルス校、カリフォルニア大学デービス校、カリフォルニア大学サンディエゴ校、ボストン大学、ライス大学、南カリフォルニア大学、クレアmont・マキャナン・スクリップス大学、ジョージタウン大学、ラスベガス大学、オクラホマ州立大学、ペッパーダイン大学、セントジョーンズ大学、私立サンディエゴ大学、ビラノバ大学、ウィリアム&メリー大学、ミシガン大学

大学生アスリートは文武両道 ポストン大学1年生 向井研人（むかいけん）選手

今回のテニスニュースは、アメリカ大学スポーツの最高峰であるNational Collegiate Athletic Association (NCAA)全米大学体育協会の中でも一番レベルの高い大学リーグであるNCAAディビジョン1の大学テニスチームに所属して勉強とテニス選手としての活動を両立している向井研人選手にインタビューし、大学生アスリートの実際の生活と練習の様子をうかがいました。

向井選手は日本人の両親のもと南カリフォルニアで育ち、2014年の秋からマサチューセッツ州ボストンの名門私立総合大学であるボストン大学（Boston College、通称BC。Boston Universityは別大学）に入学し、新入生ながらレギュラーの位置を獲得して活躍しています。



「MORE TENNIS」

向井選手に高校生のジュニアテニス選手時代と大学生アスリートになってから変わったことを聞いてみたら、一言「More Tennis（今は高校時代よりもっとテニスをしている）」という言葉が返ってきました。

現在の向井選手の練習時間は、週2回の午前6時からのウエイトトレーニングと授業後毎日の3時間のテニストレーニングとなっています。それに加えて今はシーズン中なので、主に毎週金・土・日に行われる試合（ホームマッチ・遠征・ダブルヘッダー含む）があり、大変忙しい日々を送っています。

文武両道

向井選手のような大学生アスリートには「文武両道」が要求されます。アメリカの大学スポーツでは、NCAA（全米大学体育協会）が決めたルールにより、ある一定の成績を維持しないと試合出場さえも出来なくなってしまうのです。そのためコーチも学業の優先を徹底して行い、遠征先での試合後にチームのメンバーが揃って勉強している風景を見ることがあります。

アメリカの大学は、入学するよりも卒業するのが難しいと言われていますが、それはこのように予習復習をして自分の学習を進めておかないと課題の提出やテスト勉強が間に合わなくなってくるからです。向井選手も、大学生アスリートとして大切なことはタイムマネジメントだと言います。大学自体も文武両道のアスリートのハードワークを認めていますので、個別家庭教師をつけてくれたり、授業の優先選択権などを与えてくれたりという様々なサポート体制を用意しています。

向井選手はコーチとも良い関係を築いており、新入生ながら毎試合シングルスに使われるほど信頼されています。テニスチームの試合の結果やニュースなどを載せた専用サイトで紹介された折には、コーチから「Relentless Competitor（考えられないほどにしぶとい選手）」という称号をもらっています。そして先日のカリフォルニア遠征では、その名に恥じない活躍をみせました。強豪UCアーバイン校（カリフォルニア州立大学アーバイン校）との対戦でチームは敗戦（2勝5敗）したものの、No. 5シングルスプレイヤーとして出場した向井選手は、3時間以上にも渡る激戦の末7-6、7-6というスコアでチームに2個目の勝利をもたらしました。

テニスシーズンは4月末まで続き、向井選手の忙しく充実した日々はこれからが佳境です。

「YOU HAVE TO LIKE YOUR TEAM」 - 大切なのはチーム愛 -

向井選手は、そんな忙しい日々も充実して楽しんで過ごしていると言います。そしてこれからアメリカの大学に留学・進学して大学生アスリートとして活躍することを目指している選手へのアドバイスとして、自分のチームとチームメイトを愛しなさいと言っています。その理由は、チームメイトとは毎日の練習や試合・遠征で行動を共にするだけでなく、チームとして学校外での社会貢献活動やボランティア活動への参加も行い、常に大学生アスリートとしてチームと共に生活をしているからです。

向井選手はこのボストン大学に進学することを考えた時に、このテニスチームを公式訪問（2泊3日）として訪れ、チームの先輩の部屋に泊まり生活を共にしてから決めたと言います。その時には大学のキャンパスを見学したり、アメリカンフットボールの大学対抗戦に連れて行ってもらったりして、自分の大学生活をシュミレーション出来たことが進路決定に大いに役立ったそうです。

向井選手の行った公式訪問は大学側が費用を負担する側面で様々な条件があるので、全ての学生やアスリートが出来るわけではありません。しかし、アメリカでは高校生が大学進学を考える際には、アスリート進学に限らずほとんどの学生が進学希望の大学に訪問して（非公式訪問）、自分が実際に行って生活する場所を肌で感じることを重要視しています。

水球部『練習スケジュールと遠征試合』 斎藤幸樹くん

■練習

練習は週5日、練習時間は朝の6：30から7：45までの朝練と、13：00から15：00の昼練の二部にわかれています。朝練では、月、水曜日がトレーニングルームでの筋トレ、火、木曜日がプールでスイムです。昼練はスイム中心で、コーチは練習メニューを選手に指示し、選手個人個人が自分の意識している点を工夫して、練習に取り組みます。

僕のお気に入りの練習はパワータワーです。パワータワーとは、写真の様に取り付けられた、水の入った大きなバケツをベルトで腰に繋ぎ、泳いで引っ張る練習です。この練習は朝練で行われ、25mを4～6本繰り返します。これを行うことで、力強い泳ぎを身につけることができます。

■遠征

週末は大会に参加するため、各地へ遠征します。移動は、近い場所でも1時間半はかかり、一番遠い場所は4時間かかりました。この時間は無駄になってしまうような気がしますが、普段なかなかしゃべれないチームメイトと時間をかけてコミュニケーションをとるいい機会です。

もうすぐ水泳シーズンが終わります。今シーズンの水泳部での僕の目標は、「水球のためにがんばること」でした。みなさんも知るように水球は泳げなければできないスポーツです。僕の昔からの一番の課題は「泳ぎ」です。今まで僕は苦手分野を長所で隠しながらプレイしていました。しかし、レベルが上がるにつれ、苦手分野を克服しなければこの先には進めないと感じていました。今回水泳部に参加したことで徐々に自信がつき、泳ぐことを意識できるようになりました。ただ、今のままでは物足りません。今後も、努力あるのみだと思います。



ソフトボール部『遠征試合』 眞名はるかさん

■バンでの移動

ビジターゲームで試合会場へ移動する際は、カレッジのバンを2台使用します。遠征試合では、同じ地区のリーグに所属する対戦相手の大学が試合会場となり、移動時間は1時間～1時間半ほどですが、遠い時には、San Joseという街まで2時間ほど走ることもあります。往路ではリラックスした雰囲気、コーチやチームメイトから日本のことについて質問されることがよくあります。この間は、コーチがフィリピンでの震災について話をしていた、私も日本の東日本大震災についても質問され、選手達はみんな真剣に話に聞き入っていました。

たまには、「日本では猫を食べるの?」といった拍子抜けする質問も飛んできますが、バンでの移動は、コーチやチームメイトとコミュニケーションを取るととても良い機会です。バンでソフトボールの話をするのは、復路の時間が多く、特に負けた試合の後では、選手達がコーチに試合内容についての質問をします。毎回、試合後にミーティングは行われますが、後で気づいたこと等をすぐにコーチに確認できるので、行きの移動とは別の意味で、帰りの移動もチームにとっては大事な時間です。

■遠征試合での準備

ユニフォームを着たまま遠征先へ向かうため、現地に着くと、すぐにベンチに入りアップを始めます。遠征ではダブルヘッダーが多く、お昼をまたぐこともあるので、各自で昼食を準備していますが、たまにコーチがサンドウィッチを準備してくれます。アメリカの大学では、スポーツの試合に必ずアスレチックトレーナーが待機しており、テーピング等が必要な選手は、各自でトレーナー室を訪ね、試合に向けた準備を行います。ビジターゲームでも、ホームゲーム同様、試合前にコーチからオーダーが発表され、試合に臨みます。

■最近の遠征試合

私はホームランを打つタイプの打者ではありませんが、コーチが出塁率で打順を決める方針の為、最近は4番・遊撃手で出場しています。試合後のミーティングでは、他のチームの勝敗等を確認した後、自分たちの武器は攻撃ではなく守りであり、守備が安定してきていることは良いことだということを確認しました。少し前の遠征では、私達が球場に到着した途端、土砂降りに。試合は午前に予定されていましたが、午後からのダブルヘッダーに変更となり、マーセッドに戻ってきた時には夜遅くなってしまいました。遠征は長距離の移動、慣れない球場等、状況が不安定な中で環境に対応しないといけないので、ホームでの試合よりも調整する部分が多く大変ですが、それも含めて挑戦だと思うと、自分が成長できる良い機会です。

アスレチックトレーナープログラム『女性アスレチックトレーナー』橋田久美子さん

■女性トレーナーの難関と克服方法

体格差などから、女性には難しい作業もあります。重い荷物を運ぶことや男性の更衣室の中に入らなければいけない時は、男性のトレーナーが優先的に作業を行います。しかし、緊急事態となれば、すぐに駆けつける心構えは必要です。また、選手のストレッチをする際に、男性と同じ方法で行うと力不足であることが多々あります。マーセッド・カレッジのトレーナールームには、NATAの資格を持つ女性トレーナーの方が駐在しており、男性トレーナーとは違うストレッチ方法を教えてもらいました。自分の体をうまく使うこのストレッチ方法のお陰で、力を入れなくても、自分より大きい選手を楽にストレッチすることができるようになりました。

■性別を越えて

選手のコンディション調整やリハビリがメインの仕事ですが、ここには性差はなく、知識の差が重要になります。また、選手のコンディション調整を行っていく際に、選手の目線になることもとても大切なことです。

テーピングやマッサージ、ケガの施術の際には選手の体に触れること、又それ以外にも体の悩みなどを相談するため、女性選手からは女性トレーナーが求められています。現場では、個々人がそれぞれの長所を活かし、短所を補い合うことで、男女トレーナーのメンバーが1つのチームとして活動することがとても大切です。



アニマルサイエンス専攻「動物園の一日 (ボランティア紹介)」 植木サエさん

AM 8:30 - エサ作り：まずは動物たちのエサ作りから、一日の仕事が始まります。朝はアライグマやサル、クマたちのエサを用意します。エサは基本的に、フルーツや野菜とドッグフードを一日二回あげており、決められた分量のフルーツを量って、それぞれの動物が食べやすいようにカットします。

AM 9:00 - 檻掃除：エサの準備が終わると、動物の檻の掃除を始めます。それぞれの檻によってやり方が違うので、スコップやほうき、ホースなどを使って動物の食べ残しやフンなどを掃除します。この時に、動物が食べ残したのを見て、その動物の好き嫌いや食欲なども知ることができます。基本的に、ライオン、クマ、サルなど、動物を檻から出さなければ掃除ができない場所から掃除を始めます。

AM 10:00 - エサやり：いよいよ、開園の時間です。これに合わせてエサやりを開始します。鳥たちは、エサ場が決まっているのでいつものところにエサを置いてやります。また、アライグマやサルたちは同じところにエサを置くと喧嘩をするので、いろいろな場所に隠したりばらまき、争いを避けます。

AM 11:00 - 掃除の続き：まだまだ掃除する場所がたくさん残っているので、また掃除に取り掛かります。鳥たちの檻の掃除は檻に入ってから作業になります。小鳥から鷲、コンドルなどの大きいものまでいます。

PM 12:00 - ランチタイム：ボランティアの仲間と一緒に昼食をとります。

PM 1:00~ - 作業の続き：ここからは仕事の進み具合によって時間が違いますが、エサやりや掃除の終わっていない場所の作業を引き続き行います。

1日のスケジュールを覚えるまでは大変でしたが、慣れてくると効率も良くなり、意外と早く終わるようになりました。最近は、仕事の速さをボランティア先で褒めてもらえるようになりました。そして、休憩時にはアメリカ人の友達が慣用語や趣味、お勧めの映画などなど、いろんなことを教えて良い勉強となっています。

次号ニュースレターVol.22のご案内 (5月中旬配布予定)

春学期終盤となり、学業面では期末試験に向け準備する時期です。又、クラブ活動では、プレーオフの時期に入ります。来月号も引き続き、学校・クラブ活動・留学生コラムをご紹介致します。

Y.E.S. ESL International, Inc.



アメリカ、カリフォルニア州サンディエゴに本社を置き、州立大学付属英語学校の運営や大学のホームステイサービスを手掛ける。独自の留学プログラムで多くの留学生をナビゲートする。



留学への第一歩。

アメリカ留学に関する相談はY.E.S.にお問い合わせください。